

薬学6年制教育支援システムが 私立大学情報教育協会から表彰

薬学部では、学際的チーム体制により開発したICTを利用する教育支援のための複数のシステムが稼働しています。このたび、11月27日(火)に開催された公益社団法人私立大学情報教育協会(289大学および101短期大学が加盟)第5回臨時総会において、これらのシステムに関して「ICT利用による教育改善研究発表会」で行なった発表「薬学6年制教育支援システムと主体的な学習時間の確保(発表者:二瓶裕之,和田啓爾,小田和明,中山章,唯野貢司,千葉逸朗)」が高く評価され、今年度の「奨励賞」を受賞しました。

本学薬学部のシステムの特長は、6年間の一貫したカリキュラムの中で学びの連続性を持たせて学習支援を行うことができることにあり、具体的な受賞理由として、6学年全ての科目を対象として独自の教育手法を細部まで具現化していること、教員が学際的に一体となってシステムの全てを自作したこと、学生が授業時間外においても問題演習に取り組むことができるな

ど主体的な学習時間の確保に貢献したこと、その結果として薬学共用試験や薬剤師国家試験で優れた結果を残し学部全体の教育の充実に大きく寄与したことなどが挙げられ、同協会からは、他の医療分野も含めた汎用的な情報共有基盤として発展を期待したいとのコメントも添えられました。

今年度、発表会では53件の発表があり、同賞を受賞したのは全国で2校のみという結果でした。なお、総会には薬学部二瓶裕之准教授および中山章講師が出席し、向殿会長(明治大学理工学部教授)から記念品等を授与されました。



心理学部臨床心理学科 金澤潤一郎助教が、 The 1st Asian Congress on ADHDにおいてPoster Abstract Awardを受賞

去る11月2日(金)・3日(土)、韓国ソウルで開催されたThe 1st Asian Congress on ADHDにおいて、心理学部臨床心理学科 金澤潤一郎助教がPoster Abstract Awardを受賞しました。受賞した研究のタイトルは「CBT for adult ADHD without methylphenidate: One month follow-up」(共著者:坂野雄二教授)で、薬物療法を行っていない大人の注意欠如・多動性障害をもつ方々に対して、認知行動療法という手法の心理療法を行った効果を検討したものです。



注意欠如・多動性障害は主に児童を中心に研究や臨床が行われてきましたが、2000年以降、成人を対象とした心理療

法の効果研究が実施されてきています。今後、アジア各国で同分野での研究と臨床が促進されることが期待されています。

世界的に注目を浴びている成人の発達障害に対する心理療法に関する研究者、臨床家として最先端の知見を海外に向けて発信している金澤助教の今後のさらなる活躍にご注目ください。



インドネシア大学歯学部との姉妹校協定延長

本学歯学部は、2007年10月にインドネシア大学歯学部と姉妹校協定(5年契約)を結び、両学部間での共同研究や共同国際セミナーを開催し交流を続けてきました。2012年11月9日、本学歯学部中澤教授がインドネシア大学歯学部を訪問し、姉妹校協定延長の提携書の交換を行いました。

提携書の交換式は、インドネシア大学のメインキャンパス(Depok campus)本部棟内の特別会議室で行われ、インドネシア大学学長、インドネシア大学歯学部副学部長、インドネシア大学国際交流部長など関係者15名が参列し執り行われ、インドネシア大学歯



インドネシア大学歯学部副学部長Dr. M.Suhaisini Soeto(右)と中澤教授(左)

学部副学部長と中澤教授の挨拶に続き、インドネシア大学学長が、「両学部間の交流が今後増々活発になることを期待する」と語りました。

その後、インドネシア大学歯学部主催の歓迎昼食会が行われ、和やか

に歓談しながら、今後の両学部間交流について話し合いが持たれました。

また今回の姉妹校協定延長を記念する国際セミナーが開催され、本学大学院歯学研究科2年生眞島いつみさんの研究発表、中澤教授の特別講演、シドニー技術大学Meiya Sutisno教授の特別講演が行われました。



右からインドネシア大学歯学部副学部長Dr. M.Suhaisini Soeto、インドネシア大学学長Dr. Ir. Muhammad Anis、中澤教授